

病 院 だ よ り

International Goodwill Hospital

手話の会

高橋 守

慢性腰痛症の問題点

山下 裕

MRIってどんな検査？

遠藤 直人

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



病院だより



手話の会



手話と聞くと、「昔から興味はあるけど機会がなくて……。」「覚えるのが難しくて……。」などの言葉を多く聴きます。私も同じ気持ちでした。

私が手話と出会ったのは、友人からの紹介で「一緒に野球をやりたい」との一言から始まりました。聴覚障害者と初めて会い、見た目も体も何一つ自分と変わらない。ただ言葉が手話という形で表現されたのです。何か別の世界に入り込んだような気分でした。

その後たくさんの聴覚障害者の方々と触れ合うことができ、何か自分がお手伝いできることがないかと考えるようになりました。

当院でも、聴覚障害者の方が定期健診や薬の処方などでご来院されていることがわかり、病院で手話ができるスタッフがいれば、何らかのお手伝いになるのではないかと思い、以前から当院で行われていた手話の勉強会を引き継ぎ、サポートしております。

去年は職員と聴覚障害者の方とともに食事会を行い、楽しい時間を過ごさせていただきました。

私にとって手話は、表現が豊かで感情を素直に表現できる言葉であり、聴覚障害者の方々と触れ合うことで、自分だけでは絶対にできない体験をすることにより、多くのことを学ばせていただいております。冒頭にある気持ちは、今は「楽しくてやめられない。手話をひとつ覚えるだけで気持ちが豊かになる」そんな気持ちに変わりました。

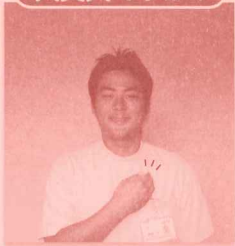
まだ手話で会話できるまでは遠い道のりではありますが、挨拶を中心に病院ならではの手話「大丈夫」「お大事に」などを少しずつ勉強させて頂いております。

これからは、スタッフから積極的にコミュニケーションがとれるように心がけていきたいと思います。

その際には、どうか優しく笑顔で見守ってください。

理学療法部 高橋 守

大丈夫ですか？



腕を折り曲げて
指先を胸につける。



左胸から右胸へ
移動させる。



その手を相手へむかって
笑顔で優しく開く。

慢性腰痛症の問題点

従来慢性腰痛は、急性腰痛の時間経過が3ヶ月から半年以上持続するもの、とされてきました。その中には次の2種類の腰痛が考えられます。一つは一旦軽快した腰痛が再燃を繰り返し、長引く腰痛です。このような腰痛は“腰”を構成する脊椎・椎間板・椎間関節・神経組織などの障害に由来するものとして原因が特定できる、急性腰痛と同様なしくみで発生する痛みであり、いわゆる急性腰痛が長引いたものです。一方、現在の検査手技では腰痛の原因を特定できない頑固なあるいは再発を繰り返す腰痛も存在します。

前者は原因である部位の治癒、除去、管理により治療可能なものですが、後者は疼痛の原因を把握できずに治療計画すら立たない非常にやっかいなものです。また、慢性腰痛を呈する患者さんは医療機関への通院に多大なエネルギーを費やしており、社会生活にも破綻を来たしている例も見受けられます。そして両者の混合病態も考えられます。

これまで慢性腰痛は心因性腰痛と同じもののように考えられてきました。しかし現在は多くの因子が関与しているものと捉えられています。急性期の神経や組織に対する実質的な障害が消失したにもかかわらず疼痛が続いている神経因性疼痛、そして疼痛による廃用性筋萎縮・関節拘縮、患者さんの多くが陥っている抑鬱状態、などに加え、患者さんの家族・労働環境等社会背景が複雑に絡み合っています。

慢性腰痛症において疼痛の全てを除去することは困難であり、除痛を治療の最大目的とするよりも、疼痛管理のみならず心理的アプローチ、機能訓練などを駆使し、患者さんのADL（日常生活動作）、QOL（生活の質）向上を治療の目標とすることが大切です。

また今回のお話の後には、運動の中心となる体幹近くの筋肉への働きかけを目標とする運動や、痛みにより使われず拘縮してしまった関節に対するストレッチの方法などを当院理学療法士に実演してもらい、皆さんの日常生活への一助と成り得ることを期待致します。

整形外科医長 山下 裕

ご案内

このテーマは

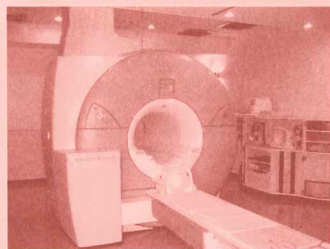
平成22年10月8日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

MRIってどんな検査？

MRIは中心に体の入る穴のあいた大きな磁石のようなもので、この大きな穴の中に体を入れて、ラジオに用いられる電波を体に当てて、体の中の状態を画像化する検査です。体の任意の断面画像(縦・横などの輪切り)が得られ、診断に大いに役に立ちます。



当院の現在のMRIは平成17年の10月より稼働しており、シーメンス社製のアバント1.5T(テスラ)という機器を使用しています。

テスラとは、磁石の大きさを表す国際単位です。現在臨床で使用されているMRIは、0.2~3.0テスラまであり、その数値が大きいほど、質の高い画像を描出することが出来ます。

検査室内は常に大きな磁力が働いており、金属の物を持ち込めません。その為検査を始める前にお着替えをしていただき、お手持ちの貴重品(アクセサリ・時計・磁気カード)、金属類(ヘアピン・ピアスエレキバン)、入れ歯などはずしていただきます。また、化粧品には磁性体が含まれるもの(マスカラ・アイライン・アイシャドウ等)があり、検査画像に影響があるだけでなく目の粘膜等を傷つけたりすることがあるので、出来れば付けずに来院していただくとスムーズに検査が受けられます。

また、手術などにより体内に金属のものがある方、身体やまぶたに入れ墨をしている方、閉所恐怖症などで狭い場所が苦手な方など検査が受けられない場合がありますので注意が必要になります。

当院では、1日8:30~18:00までで16~20人程度検査を行っています。検査時間は目的や検査部位によって異なりますが、20~30分くらいです。痛みを伴うことはなく、検査後の安静などは必要ありませんので食事や入浴など、日常生活は普段どおりで結構です。



患者さんには、安全で安心して検査を受けていただくために検査開始時刻より少し早目に来院していただいています。ご協力お願い致します。

中央放射線部主任 遠藤 直人